

## 「夏に香る魅惑の植物たち」

森林浴などでの花や葉の心地よい香りは気分を爽やかにしてくれます。

植物が香りを放つのは、昆虫や鳥など、誰かに花粉を運んでもらうため、ここにおいしい蜜（エネルギー源）や花粉（タンパク質）がありますよと誘うためです。

よい香りは、われわれ人間にも気持ちや神経を休ませる鎮静効果や心を和やかに明るくしてくれる高揚効果などがあります。

今回は泰山木の花、月下美人、ラベンダーなど夏に芳香を放つ植物たちと彼女たちを詠んだ句を紹介합니다。

### 1. 泰山木の花（たいさんぼくのはな）

<初夏>

北米原産のモクレン科の常緑高木。

まず匂いから咲いたことに気がつく花です。

5～6月ころ、見上げるほどの大樹の中に真っ白な大輪の花をつけ、よい香りがあたりに広がります。

北米原産とは思えない東洋的な花で、仏を連想させる初夏を代表する花です。

日本では公園や庭木としても多く植えられています。

ちなみに「泰山」とは中国山東省の霊山です。

また、花からはマグノリアの香水がつくられます。

水迄も匂ふ泰山木の花

星野椿(ほしの つばき) (1930-)



写真提供:ピクスタ  
hotphoto / PIXTA(ピクスタ)

## 2. 定家葛の花（ていかかずらのはな）

<初夏>

キョウチクトウ科の蔓（つる）性常緑植物。

山野に自生し、地上に出た根が他の樹木に巻きつき10メートル近く這いあがることもあります。定家葛の名は鎌倉時代の歌人藤原定家が式子内親王（しょくしなしいしんのう、後白河天皇の皇女）との恋の末、内親王亡き後も執心から墓にからみついたという言い伝えによります。初夏にジャスミンに似た芳香のある白い花を咲かせ、のちに黄色に変わります。

虚空より定家葛の花かをる

長谷川權（はせがわ かい）（1954-）



## 3. 梔子の花（くちなしのはな）

<仲夏>

アカネ科の高さ1～2メートルの常緑低木。

本州の中部より南の海岸に近い林に自生し、また庭木として植えられている身近な木です。

5～7月ころに咲く花は、開きはじめの色の白さと香気の高いことで際立っていて、湿った夜にはさらに香り立ちます。

秋に実を結びますが、熟しても口が開かないので、「くちなし」の名があるとされています。

実は染料や薬用に用いられます。

今朝咲きしくちなしの又白きこと（今朝＝けさ）

星野立子（ほしの たつこ）（1903-1984）



#### 4. 玫瑰（はまなす）

<仲夏>

バラ科の落葉低木。

太平洋岸の茨城より北、および日本海側の鳥取以北、そして北海道の海岸の砂地に群生します。

6～7月ころ、紅紫色のバラに似た良い香りを放つ5弁花を咲かせます。

花は一日で散りますが、次から次へと咲き、花と赤い実が一緒に見られます。

玫瑰や今も沖には未来あり

中村草田男(なかむら くさたお) (1901-1983)



写真提供:ピクスタ  
ニッシー / PIXTA(ピクスタ)

## 5. 夕菅（ゆうすげ）

<晩夏>

ユリ科の多年草。

本州、四国、九州の山地や高原に自生します。

6～7月に、高さ1～1.5メートルの茎の頂点に、百合に似た細長い淡黄色で芳香がある花を開きます。

夕方開花し、翌日午前にはしぼむことからユウスゲ、花色からキスゲの名があります。

夕菅は胸の高さに遠き日も

川崎展宏(かわさき てんこう) (1927-2009)



作者 Alpsdake [CC BY-SA 4.0 (<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0>)], ウィキメディア・コモンズより  
[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hemerocallis\\_vespertina\\_\(Mount\\_Ibuki\\_s2\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hemerocallis_vespertina_(Mount_Ibuki_s2).jpg)

## 6. 月下美人（げっかびじん）

<晩夏>

サボテン科の多年草。

日本での栽培においては6～11月に咲き、花を見なくても漂いはじめた香りで咲きはじめることがわかります。

夜7時ころ、幻想的な純白大輪の美しい花が咲き、朝までにしぼみます。

夜に開花し、花粉と花蜜が多いのは原産地の熱帯地域において、コウモリによる媒介受粉への適応と考えられています。

月下美人わが息さへも芳しや（芳しや=かんばしや）

下村ひろし(しもむら ひろし) (1904-1986)





## 7. 朝鮮朝顔 (ちょうせんあさがお)、ダチュラ

<晩夏>

ナス科の1年草で高さ約1メートル。

学名の *Datura* のカタカナ表記でダチュラと呼ぶことも多い。

アジア熱帯地方の原産で、日本へは江戸時代に輸入され、薬用として栽培されました。

夏から秋にかけ、朝顔に似た漏斗(ろうと)状の美しい花をつけ、香りが甘美で香水に使われることもあります。

華岡青洲が世界で初めて全身麻酔を用いた手術の麻酔剤にはこの種子が含まれていました。

猛毒なので量を誤ると発狂状態となります。

花ダチュラ妻の言葉に毒すこし

橋本榮二(はしもと えいじ) (1947-)



## 8. 茉莉花（まつりか）、ジャスミン

<三夏>

※三夏＝初夏・仲夏・晩夏の総称

インド原産のモクセイ科の蔓性の常緑小低木。

高さ 1.5 ～ 3 メートル。

葉は 5 ～ 12 センチ、広卵形でつやがあり、葉脈が目立ちます。

花は白色で直径約 2 センチ、一重や八重咲きで 5 ～ 10 月に咲き、強い芳香を放ちますが、翌日には散ってしまいます。

主として、アジアの熱帯、亜熱帯で広く栽培され、花を乾燥させて茶葉と混ぜ、ジャスミン茶にします。

茉莉花を拾ひたる手もまた匂ふ

加藤楸邨(かとう しゅうそん) (1905-1993)



## 9. ラベンダー

<三夏>

地中海原産のシソ科の木質常緑多年草。

高さ 60 ～ 70 センチ。

5 ～ 9 月ころ、薄い赤味がかった紫色の小粒の花をつけます。

全体に芳香があり、ご存知のとおり、香水やオーデコロン、石鹸、化粧品に使われています。

語源は「洗う」という意味のラテン語 *lavo* や *lavare* に由来していて、古代ローマ人たちは洗濯に用いたり、浴用香料として疲労や硬直した関節を和らげるために利用していたと伝えられています。

ラベンダー栞りて座右の広辞苑（栞りて＝しおりて）（座右＝ざゆう）

阿波野青畝(あわの せいほ) (1899-1992)



作者 KENPEI (KENPEI's photo) [ GFDL ( <http://www.gnu.org/copyleft/fdl.html> ), CC-BY-SA-3.0 ( <http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/> ) または CC BY-SA 2.1 jp ( <https://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.1/jp/deed.en> ) ], ウィキメディア・コモンズ経由で  
[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lavandula\\_dentata1.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lavandula_dentata1.jpg)

私も詠んでみました。

#### 10. 忍冬の花 (すいかずらのはな)、忍冬の花 (にんどうのはな)、金銀花 (きんぎんか)

<初夏>

スイカズラ科の蔓性常緑低木。

高さ数メートルで、日本全土の山地に自生します。

花の蜜を吸うと甘いので、「吸葛 (すいかずら)」の名がつき、砂糖がないころ、砂糖の代わりとされていました。

英名 **Honeysuckle** もそれにちなむ名称で洋の東北を問わず、蜜が吸われていたようです。

また、葉は冬も枯れないので「忍冬 (にんどう)」の別名があります。

5～6月ころ、葉のつけ根に筒形の花を開き、上部が裂け、芳香を放ちます。

はじめは白く、後に淡黄色に変わるので金銀花とも呼ばれます。

蜜甘しすわば青東風すひかづら (青東風＝あおこち)  
白井芳雄



今回は夏に芳香を放ちわれわれを楽しませてくれる花たちの紹介と彼女たちを詠んだ俳句をお届けしました。  
お楽しみいただけましたでしょうか？

全体を通じての参考文献、出典：吉田よし子

『香りの植物 樹木からハーブまで』（山と溪谷社）  
ISBN4-635-06303-8

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修  
『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）  
ISBN978-4-06-128972-7

『角川俳句大歳時記 夏』（角川学芸出版）  
ISBN4-04-621032-X C0392

白井明大・有賀一広  
『日本の七十二候を楽しむー旧暦のある暮らしー』（東邦出版）  
ISBN978-4-8094-1011-6 C0076

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 [melmaga@tic-co.com](mailto:melmaga@tic-co.com) まで、  
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒 530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3 F  
TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : [info@tic-co.com](mailto:info@tic-co.com)